

事業コード	15020403	政策コード	15	政策名	安全・安心なまちづくり						
事業名	阿仁熊牧場受入れ支援事業	施策コード	02	施策名	消費者の安全・安心と生活衛生の確保						
		指標コード	04	施策目標(指標)名	人と動物が共生できる社会の形成						
部局名	生活環境部	課室名	生活衛生課	班名	食品安全・安心班	(tel)	1591	担当課長名	加沢敏明	担当者名	庄司浩久

評価対象事業(計画)の内容

事業年度 平成24年度 ~ 平成25年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
 秋田八幡平クマ牧場に残されたクマへの対応については、殺処分による県のイメージダウンを懸念し、全県的な視点に立った北秋田市の阿仁熊牧場への全頭受入れ判断に対して、県として全面的に支援する必要がある。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)
 北秋田市に対し、新たに阿仁熊牧場に整備する受入施設への支援を行い、平成25年内に同牧場への移送を終える。
 (重点施策推進方針との関係) 重点事業として要望 その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況
 ①ニーズを把握した対象
 受益者 一般県民 (時期: H24 年 11 月)
 ②ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に 知事への手紙など)
 ③ニーズの具体的内容
 秋田八幡平クマ牧場への対応について、これまで223件の意見が寄せられているが、このうち残されたクマへの意見の大半が「殺処分に反対」するものとなっている。

4. 目的達成のための方法
 ①事業の実施主体 県
 ②事業の対象者・団体 県民、北秋田市
 ③達成のための手段
 阿仁熊牧場への全頭移送を行うため、北秋田市に対し新たに整備する受入施設に係る補助を行う。
 ④比較した代替手段及び選択した手段の有効性
 秋田八幡平クマ牧場の事故発生後、国内のクマ牧場や全国の動物園に対してクマの引受け等の協力依頼を行ったが、全頭を受入れる施設が見つからない状況の中、北秋田市長から全頭を受け入れる表明があった。同市の判断は、県のイメージダウン等を懸念した全県的な視点に立ったものであることから、同市に新たな負担が生じないよう、県として全面的な支援をする必要がある。

◎把握してない場合の理由及び今後の方針
 ①理由
 ②今後の方針

5. 事業の全体計画及び財源		単位(千円)							
順位	事業内訳	左の説明	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体(最終)計画
01	阿仁熊牧場受入れ支援事業	クマの全頭受入れに伴い、北秋田市が新たに阿仁熊牧場に隣接して設置する施設の設計費の補助を実施する。	20,000						
財源内訳		左の説明	20,000						
国庫補助金									
県債									
その他									
一般財源			20,000						

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 阿仁熊牧場に隣接する新たな施設が完成し、秋田八幡平クマ牧場に残されたクマの移送が終了する。

指標名	秋田八幡平クマ牧場に残されたクマの移送	指標の種類
指標式	阿仁熊牧場へ移送するクマの全頭数（平成24年12月現在 ヒグマ20頭）	● 成果指標 ○ 業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	最終年度
目標a			0	20				
実績b			②データ等の出典					
東北	阿仁熊牧場へ移送するクマの全頭数							
全国								

③把握する時期 ● 当該年度中 12月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月

指標名		指標の種類
指標式		○ 成果指標 ○ 業績指標

①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）

指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	最終年度
目標a								
実績b			②データ等の出典					
東北								
全国								

③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法（データの出典含む）

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
 秋田八幡平クマ牧場に残されたクマへの対応について、殺処分による県のイメージダウンを懸念し、全県的な視点に立った北秋田市の阿仁熊牧場での全頭受入れ判断に対して、県として全面的な支援を行う必要がある。

住民ニーズに照らした事業の必要性
 阿仁熊牧場でのクマの受入れに当たっては、県内外の専門機関からなる「阿仁熊牧場活用推進協議会（仮称）」を立ち上げ、学術研究や環境学習の場としての活用を検討するなど、集客増や交流人口の拡大により、森吉山周辺全体の地域振興に繋がる。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

動物愛護管理法及び条例上、県は「県民の動物愛護精神の高揚を図るため、必要な措置を講ずるよう努める」とされていることや、殺処分による本県のイメージダウンや観光面への配慮といった全県的な視点に立った北秋田市の受入れ判断について、県としての全面的に支援する必要があること。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

○ 重点事業 ○ その他